

目が開く。心が拓く。開かれた金剛院へ

令和7年

12月7日(日)
14時～

お里
沢市

沼田成田不動尊 北関東三十六不動尊霊場 第二番札所

金剛院

(群馬県沼田市坊新田町1108 ☎0278-22-3469)

公演
演目

◆寿式三番叟(祝宴の舞)

◆壺阪霊験記(人形芝居三大名作『壺阪霊験記』)

盲目の夫・沢市と妻・お里の献身的な愛を描き、一途な信仰が観音様の奇蹟を呼ぶ感動作です。沼須人形芝居の精妙な技で、深い夫婦の情を綴ります。



技の継承、この道五十年。九代目座長 金井竹徳(かないたけのり)が魂を込めて演じる、盲目の夫・沢市!

沼須人形芝居保存会あけぼの座

☎ 0278-24-2745 (金井) akebonoza1854@gmail.com

由来と経過

沼須人形芝居の伝来は、阿波国 現在の徳島県の旅芸人から伝わった説、桃井村(現在の北群馬郡榛東村) 山子田から伝わった説、江戸人形説など諸説ありますが、現在のところはっきりしていません。

人形芝居は明治中期が最盛で、大正時代に入ると指導的立場の古老2名の逝去により、人形芝居は徐々に衰退し、昭和10年頃からは近づく戦争の足音とともに上演はされなくなりました。

復活を遂げたのは、昭和27年10月2日保存会が組織され、不定期ではありますが、利根沼田のイベント等で上演し、技術を継承していました。昭和49年、人形のカシラ等一式が、沼田市指定文化財候補になったことを契機として昭和50年1月19日保存会が発足、同時に演芸部(あけぼの座)も傘下に組織し、同年4月3日から年1回町内にて定期公演会が行われるようになりました。

その後も町民の皆様を始め、多くの皆様のご支援をいただき活動を行う中、沼須人形芝居の知名度も高まり、不定期の公演会の依頼も増加し、海外での上演も行いました。現在では、沼須町に稽古場を建て練習に励み、沼須町の春まつりでの公演を行うとともに、市内を中心に県内も含め人形芝居の披露を行っています。

登録

- ・昭和51年3月30日(1976年)
沼田市重要有形民俗文化財指定(沼須人形芝居の人形頭及び付属品)
- ・平成7年1月23日(1995年)沼田市重要無形民俗文化財(沼須人形芝居)
- ・令和5年 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産2022」登録
(プロジェクト名)
沼須人形芝居継承者プロジェクト ～江戸時代の技を今につなぐ～



演目

【寿式三番叟】

「寿」はめでたいこと「式」は儀式性「三番」は鈴の舞の一つを指し、全体として「めでたい儀式の三番」という意味になります。祝賀の舞踊で、特にめでたい席で上演します。千歳、そして二人の三番叟が登場し、天下泰平、五穀豊穰、国土安穩を祈る舞を披露します。愛を描いた作品です。

【壺阪霊験記 山の段】

大和国(現在の奈良県)壺坂に住む盲目の「沢市」は三味線弾きをし、女房「お里」の内職のかせぎに助けられながら、細々と暮らしていました。

そんなある日、近頃お里が毎晩家を空けることに気付いて、疑念を持った沢市は、お里を問い詰めますと、実は坂寺へ『沢市の目が治るように』と願掛けに行っていたのだと知ります。沢市はお里に疑ったことを詫び、壺坂寺へお参りすることにしました。

しかし、『こんな自分と暮らしていてもお里は幸せにはなれない』と絶望し、傍らの谷に身を投げてしまいます。後を追ってお里も身を投げます。

しかし、観音様のご利益で二人の命は救われ、沢市の目も見えるようになったという、お里の献身的な愛を描いた作品です。

